

皆様おはようございます。

暑い日々、毎日お元気でお過ごしでしたか。

いよいよ8月に入りました。暑さもあと1か月半ほどの辛抱でしょうか。水分補給に心掛けて頂き、熱中症にお気を付けください。

さてヘブル書も終わりに近づいてまいりました。

丁寧に丁寧に、旧約聖書の完成のために、影の後に来る光であるイエス様とその新しい契約について語られています。

10:1 いったい、律法はきたるべき良いことの影をやどすにすぎず、そのものの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて来る者たちを、全うすることはできないのである。

前章に続き、2節には良心（罪の「自覚」）との言葉が出てきます。この章では、更に22節にも出てきます。（「心はすすがれて良心のとがめを去り」）

前章ではこのようがありました。

9:14 永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわぎを取り除き、生ける神に仕える者としないうであろうか。

心の最も深いところにある人の「良心」。これにふたをして、見ても見ぬふりをする人は多くあると思いますが、その呵責からは逃れることが出来ません。律法は人に罪を自覚させます。人の良心の呵責を覚えさせます。そしてそこに命による贖いが必要となります。

1 いったい、律法はきたるべき良いことの影をやどすにすぎず、そのものの真のかたちをそなえているものではないから、年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによっても、みまえに近づいて来る者たちを、全うすることはできないのである。

そういう律法は、人を責め立て、不完全であるから悔い改めよとの律法しか見の前の人の姿を現すものですから、そして神に帰るべきことを知らせるのですから、この上なく有益なのですが、人を救う上では欠けがあったとヘブル書は語っていました。そして本章では、律法は来るべき良いことの影を宿すにすぎないと語ります。

2 もしできたとすれば、儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物をするのがやんだはずではあるまいか。

律法が完全なものであれば、律法に従って動物のいけにえにより人が清められたのであるならば、どうして再び汚れるのか。どうして罪の自覚があり続けるのか、それは完全にきよいものと出来なかったからではないかと聖書は語ります。

10:2 もしできたとすれば、儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物をするのがやんだはずではあるまいか。

10:3 しかし実際は、年ごとに、いけにえによって罪の思い出がよみがえって来るのである。

10:4 なぜなら、雄牛ややぎなどの血は、罪を除き去ることができないからである。

動物の血は、罪を除き去ることが出来ないのです。それではどうしたら良いのでしょうか。

5 それだから、キリストがこの世にこられたとき、次のように言われた、／「あなたは、いけにえやささげ物を望まれないで、／わたしのために、からだを備えて下さった。

6 あなたは燔祭や罪祭を好まれなかった。

7 その時、わたしは言った、／『神よ、わたしにつき、／巻物の書物に書いてあるとおり、／見よ、御旨を行うためにまいりました』。

8 ここで、初めに、「あなたは、いけにえとささげ物と燔祭と罪祭と（すなわち、律法に従ってささげられるもの）を望まれず、好まれもしなかった」とあり、

9 次に、「見よ、わたしは御旨を行うためにまいりました」とある。すなわち、彼は、後のものを立てるために、初めのものを廃止されたのである。

「あなたは、いけにえやささげ物を望まれないで、わたしのために、からだを備えて下さった。」

これは、いけにえや捧げものという外的な捧げものではなくて、神様に喜ばれるのは悔いた素直な心である私たちの身体自身であるということを示します。神様はイエス様を、動物のいけにえではなくて、そのイエス様の身体を私たちのために備えて下さいました。神様は人の燔祭や罪祭を好まれず、幾度も幾度も繰り返されながらも同じ罪の中に舞い戻る人のあり様をご覧になり、初めのものを廃止なさって新しき神のみ旨を実行して下さいました。

10 この御旨に基きただ一度イエス・キリストのからだがささげられたことによって、わたしたちはきよめられたのである。

これは動物によるきよめとは異なり、私たちに完全にする神による人のためのささげものでした。

11 こうして、すべての祭司は立って日ごとに儀式を行い、たびたび同じようないけにえをささげるが、それらは決して罪を除き去ることはできない。

12 しかるに、キリストは多くの罪のために一つの永遠のいけにえをささげた後、神の右に座し、

13 それから、敵をその足台とするときまで、待っておられる。

14 彼は一つのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである。

一つの永遠のいけにえ。

毎年毎年捧げなくてはならない動物のいけにえと比べ、この「永遠の」との言葉がこの章には何回も出てきます。

1 節「年ごとに引きつづきささげられる同じようないけにえによって」とありますように、そのように古きいけにえはいつまでもいつまでも続いていました。

1 2 節「キリストは多くの罪のために一つの永遠のいけにえをささげた」

1 4 節「きよめられた者たちを永遠に全うされた」

しかしこれこそが、キリストイエスによる永遠の救いです。

15 聖霊もまた、わたしたちにあかしをして、

16 「わたしが、それらの日の後、／彼らに対して立てようとする契約はこれであると、／主が言われる。わたしの律法を彼らの心に与え、／彼らの思いのうちに書きつけよう」／と言い、

17 さらに、「もはや、彼らの罪と彼らの不法とを、思い出すことはしない」と述べている。

18 これらのことに対するゆるしがある以上、罪のためのささげ物は、もはやあり得ない。

このイエス様の贖いにより、もはや罪のための動物の捧げものは不要になりました。

19 兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることができ、

20 彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいつて行くことができるのであり、

21 さらに、神の家を治める大いなる祭司があるのだから、

22 心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰

の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。

2節に「儀式にたずさわる者たちは、一度きよめられた以上、もはや罪の自覚がなくなるのであるから、ささげ物をするのがやんだはずではあるまいか。」とありましたが、罪の自覚、そして22節にありますように、良心のとがめは、人の大きな問題でした。しかしそれにもかかわらず、人には出来なくなっていたことを神様はなしてくださいました。

19 兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることができ、

はばかることなく。開かれた心で、フランクな、率直な心で、私たちは聖所に、恵みの座に、神様の御前に進むことが出来るのです。この開かれた心という言葉は、繰り返し35節にも書かれています。

35 だから、あなたがたは自分の持っている確信（あなたの開かれた、赦され、解放された状態）を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。

そのような事由が、恵みが、聖霊が私たちに注がれ、イエスの血によって、はばかることなく聖所にはいり、彼の肉体なる幕をとおり、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとって、はいつて行くことができ、神の家を治める大いなる祭司がおられるのでしたら、私たちはどうして良心の呵責に悩み続けることが出来るでしょうか。どうして私たちのうちに未だ解決されない赦しの問題があるのでしょうか。私たちは光の中に入れられているのです。

22 心はすすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。

23 また、約束をして下さったのは忠実なかたであるから、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け、

24 愛と善行とを励むように互に努め、

25 ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互に励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。

そうであるならば、私たちは光にある人生を進もうではありませんか。ひたすらこの恵みの信仰に生き、わたしたちの告白する望みを、動くことなくしっかりと持ち続け、

24 愛と善行とを励むように互に努め、絶えず教会の集いに参加し、互いに励まし、来るべ

き救いの完成の時を待ち望んで励まし合おうではなりませんか。

10:26 もしわたしたちが、真理の知識を受けたのちにもなお、ことさらに罪を犯しつづけるなら、罪のためのいけにえは、もはやあり得ない。

10:27 ただ、さばきと、逆らう者たちを焼きつくす激しい火とを、恐れつつ待つことだけがある。

10:28 モーセの律法を無視する者が、あわれみを受けることなしに、二、三人の証言に基いて死刑に処せられるとすれば、

10:29 神の子を踏みつけ、自分がきよめられた契約の血を汚れたものとし、さらに恵みの御霊を侮る者は、どんなにか重い刑罰に価することであろう。

10:30 「復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と言われ、また「主はその民をさばかれる」と言われたかたを、わたしたちは知っている。

10:31 生ける神のみ手のうちに落ちるのは、恐ろしいことである。

個々の個所は恐ろしい箇所です。救いに入れられて、その知識を得ながら、心はずすがれて良心のとがめを去り、からだは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされながらもまた、再び良心の呵責に陥らせる古い生活に逆戻りすることがあっても良いのでしょうか。しかし逆戻りしたとしても、そこには私たちが満たすものは何一つありません。

10:32 あなたがたは、光に照されたのち、苦しい大きな戦いによく耐えた初めのころのことを、思い出してほしい。

10:33 そしられ苦しめられて見せ物にされたこともあれば、このようなめに会った人々の仲間にもされたこともあった。

10:34 さらに獄に入れられた人々を思いやり、また、もっとまさった永遠の宝を持っていることを知って、自分の財産が奪われても喜んでそれを忍んだ。

10:35 だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけません。

ここまで信仰に深く進んだ人たちであっても、またもまたもと古き所へと押し戻そうとする力のなんと強いことでしょうか。人の行いのなんと素晴らしい者であっても、その人の業によって救われることはありません。どんなにか素晴らしい行いをしたとしても、それは自分の業ではなくて、恵みによる神様の業です。私たちは神様から離れては、何一つ良き事を行うことが出来ません。ですから、私たちにとって最も大切なのは、神様にとどまり続けるということです。

10:36 神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。

10:37 「もうしばらくすれば、／きたるべきかたがお見えになる。遅くなることはない。

10:38 わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、／わたしのたましいはこれを喜ばない」。

10:39 しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。

しかし私たちは、神様の十分な恵みによって、その救いによって完全なきよめを頂き、信仰を捨てることなく、集会の出席をやめることなく、信仰を捨てて滅びる者ではなくて、「信仰に立って、いのちを得る者」です。

忍耐しながら、私たちが信じるに値する方はお一人であることを心底味わいつつ、どんなときにも主に心の内にお入り頂き、きよめて頂き、癒していただき、力づけて頂き、良心の呵責を葬り去っていただき、神様と共に進みたいと願います。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。尊いイエス様の命の贖いのうちに救い得ない罪がどこにあるのでしょうか。良き歩みをしていても罪は私たちに働きかけ、罪の自覚が、良心の呵責が時に私たちに苦しめますが、「しかし、わたしたちは、ひるんで滅びる者ではなく、信仰によって命を確保する者」との御言葉に深く感謝いたします。「互いに愛と善行に励むように心がけ、励まし合い」、今週も進ませてください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン